

色の持つ力で表現する工芸家

工房を構えたのは
父との思い出の町

惣領に工房「染工房明美」を構える高津明美さん。ろうけつ染めと呼ばれる技法で着物、焼き物、ステンドグラスなど幅広い作品を手掛ける、染色工芸家です。明治40年から続く総合美術展覧会「日展」(公益社団法人日展主催)では、特選を2回受賞し、審査員を一度務めると会員に、三度務めると特別会員になることができ、高津さんはその特別会員になっています。

50年余り作品を作り続ける高津さんは、「美術の教師だった父が町内の小中学校に勤めていた時、私も運動会を見に行ったりしていたので、益城町には思い入れがあります。季節感を感じることで、朝焼けもきれいなこの町が、すごく気に入っています」と、本町で制作にあたる思いを語ります。

両親と同じ教師の道には進まず、工芸家となった高津さんですが、現在は県内の大

学・高校で美術の非常勤講師を務め、若い世代の育成にも力を注いでいます。また、高校国語の教科書の表紙絵にも、作品が採用されています。

自分にしかできない
作品を残したい

役場新庁舎には、高津さんから寄贈いただいた第8回日展出品作品『阿蘇煌然』が展示されています(4ページ参照)。また、阿蘇くまもと空港旧ターミナル到着ロビーに展示されていた「雲上の岳神」も、新ターミナル隣接地に整備される広場完成後、再度展示される予定です。「作品を見て元気がでたり、きれいと感ぜてもらったりすることで、町民の皆さんが芸術的なことに目を向けるきっかけになれば」と話す高津さんは、今後さまざまな構想があり、日々制作に励んでいます。

「それぞれの色が持つ力で作品を通して訴えたいことを表現し、他の人ではできない作品を残していきたいです」

下段写真左から
熊本市東区西原の
ギャラリー/阿蘇くまもと空港に
展示されていた
「雲上の岳神」(本人提供)/惣領の
工房で作品を制作
(本人提供)

